

ドローンによるハリガネムシ用フェロモンチューブ散布試験に成功しました。

ハリガネムシは南大東島のさとうきびにとって甚大な被害をもたらす害虫のひとつです。性フェロモンを利用した交信攪乱（メスのにおいが島中に充満するためオスが迷って交尾のチャンスを失う）技術が実用化されてハリガネムシの頭数は激減し、さとうきびの増産に威力を発揮しています。毎年2月頃、性フェロモン状の溶液を充填したチューブを島中に敷設して交信を攪乱しています。この作業は人力で行っていますが、人が入るのが困難な海岸林帯等には有人ヘリを用いて空中から散布しています。この作業をドローンで行いたいというのがUFSMAプロジェクトの大きな計画のひとつでした。

様々な試行錯誤で時間がかかりましたが、沖縄本島での試験飛行を重ねた後、令和3年3月18日（木）に南大東島において散布試験を実施しました。

日時：令和3年3月18日（木） 8：00－11：00，16：00－17：20

場所：万座毛の広場（島南部の海岸林の中）

担当した俣くみきのメンバーの他に、南大東村をはじめ関係者が見守る中、午前と午後の2回にわたって散布試験を行いました。午後には仲田村長も見えました。

結果はほぼ満足できるもので第1回目の散布試験は大成功でした。散布装置にさらに改良を加えて試験を重ね、来年度からの本格的利用に備える予定です。



写真1 樹林帯の上を飛ぶドローン

フェロモンチューブは80mをロールに巻いてある。4巻をドローンに搭載。チューブを繰り出しながらカッターで1m程度に切断して散布。



写真2 ギンネムの枝に引っ掛ったチューブ
高さ1～2mに掛るのが望ましい。



写真3 関係者への説明